

令和 飛翔



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電 話 (022) 261-7055
F A X (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石 隆子

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。



撮影地・丸森町

吾妻 克美 (写真部運営委員)

令和 2 年、オリンピックイヤーの年明けです。謹んで新年のお喜びを申し上げます。宮城県芸術協会は、先の東京五輪の年に、県の芸術文化振興を担う芸術家が集う任意団体として発足、2 度目のオリンピック年に当たり、特別の感慨を覚えます。

新年は当協会「飛躍の年」です。河北新報社からご提案の写真部、工芸部の連携公募展につきましては、報道等でご承知の通り、昨年末、協定書の調印に至りましたこと、改めてご報告させていただきます。

公募展の拡大は、有能な人材、作家との出会いの場であり、協会の活性化につながるものと確信いたしております。草創期の方々の芸術文化への熱い思いを想起し、東北の雄「河北新報社」の力もお借りした新規の事業の成

功へ、協会一丸となって取り組んでまいりましょう。飛躍のためには、戦略的な事業対応とともに、しっかりと土台が必要です。東日本大震災以降の赤字基調を直視し、その脱却に向けて「アートファンD」の創設を検討してみたいと思います。今年

は子年、「鼠が塩を引く」の故事がありますが、少しずつでも目立たなくても、積もり積もって大量になるたとえです。会員各位のご賛同、ご支援を賜りたく存じます。

昨年末、宮城県美術館の移転、集約問題が急浮上、多くの皆さまが関心を持たれておりましょ

う。協会としてもこの間、複数回、県の担当者から直接説明を聞く機会を設けるなど、詳細な情報を入手し、的確な対応に努めてまいります。ご理解、ご協力をお願いいたします。

新時代の飛躍へ 土台作りを

宮城県芸術協会理事長
雫石 隆子



精進実を結び70名に栄誉 功績の14名も顕彰／表彰式・祝宴、盛大に

第56回宮城県芸術祭の表彰式

が11月26日、仙台市青葉区のホテルメトロポリタン仙台で開かれた。優秀な成績を収めた70名と、それぞれの部門で長年の功績が認められた14名が、受賞の栄に浴した。当協会をはじめ宮城県、仙台市、河北新報社など主催8団体の代表らが表彰の場に臨み、お祝いの席を華やいだものにした。

人が出席した。

宮城県芸術祭会長で当協会の雫石隆子理事長が受賞者に祝意を述べた後、「テーマイベントはじめ、本年度の芸術祭は多くの入場者で盛況だった。令和の揮毫に込めた融和・連携を深め、さらなる充実・発展を図ってほしい」とあいさつ。名誉会長で河北新報社の一方雅彦代表取締役社長（代読）も、受賞者の長年に及ぶ精進をたたえるところに、地域の芸術文化の振興を支える当協会の活動に対する感謝の気持ちを述べた。



華やいだ雰囲気にもまれた表彰式



祝宴に先立ち、演奏を披露する熊井部長(左)と小澤さん

受賞者は宮城県芸術祭賞など各賞ごとにステージに上がり、一人一人賞状と副賞の楯やメダルのほか、協会関係者ら約250人が出席した。



乾杯の発声をする大越仙台市民文化事業団理事長

祝宴は半ば恒例化している楽器演奏で開幕。洋楽部の熊井雅美部長と部員の小澤牧子さんがモーツァルト、バッハの名曲を奏で、祝いムードを盛り上げた。

第56回宮城県芸術祭来場者数(人)

事業名	来場者数
開会式	78
華道展	2,316
書道展	4,019
工芸展	2,303
写真展・写真公募展	2,814
絵画展(公募の部)	2,358
彫刻展・彫刻公募展	2,358
絵画展(会員展)	5,927
受賞者によるガラコンサート	381
文学散歩	41
長唄演奏会	161
茶会	3,627
文芸祭	159
音楽会	473
表彰式	244

参加行事

事業名	来場者数
第63回仙台三曲協会定期演奏会	354
第50回洋舞公演	950
歳末たすけ合い第57回各流舞踊大会	1,150

宮城県の村井嘉浩知事(代読)があいさつした後、今回から主催団体に加わった公益財団法人仙台市民文化事業団の大越裕光理事長の発声で乾杯。受賞を祝しつつ、懇談を通じて芸術振興に向けた連携強化への思いを深め合った。

功績者表彰と文化の日表彰 教育文化功勞

表彰された方々

- ◇功績者表彰
 - 【華道部】清水光峰(小原流)、松浦一紘(清泉古流)、米山理央(静月流)、相澤富香(草月流)
 - 【洋楽部】太田ゆり子、佐藤栄衛、渡邊直道【茶道部】針生宗江(表千家)、三浦香祥・三浦緑風(煎茶道三彩流)、阿部妙菜・大槻守哲・関口伸子・中川守京(武者小路千家)
 - ◇文化の日表彰 教育文化功勞
 - 【絵画部】庄子幸一(日本画)【書



展示の開催期間は師走も半ば。年の瀬も近づき、次第に慌ただしさを増す中、上質の作品に触れて、ゆるりと心豊かな時間を過ごそうと、例年以上の入場者でにぎわった。

第56回宮城県芸術祭絵画展受賞者作品展が12月13～19日、東京エレクトロンホール宮城の展示室で開かれた。会員の部、公募の部双方の受賞者が受賞作と新作を1点ずつ出品。会員22人、公募の8人の計60作品が展示された。受賞者による大作、秀作がそろい、レベルの高さが強調された形。新作は小ぶりながら、魅力が凝縮された印象も。作品群が語り掛ける迫力は圧倒的で、訪れた人たちの目と足をくぎ付けにしていた。

芸術祭絵画展受賞者作品展 珠玉の作品、じっくりと

- 道部】門間翠葉【邦楽部】佐藤佳代子(三曲)【舞踊部】水木歌泰(日舞)【茶道部】朝比奈南樹(織田流煎茶道)

芸術祭、後半も活況続く
至雲との語り、
ぜいたくな時間

第56回宮城県芸術祭は10月中旬以降も多彩な行事が相次いだ。茶会、長唄演奏会、文芸祭、音楽会に加え、参加行事の仙台三曲協会定期演奏会、洋舞、日舞の舞踊大会も続いた。足を運んだ市民らは、幅広く奥の深い芸術の鑑賞を満喫していた。



【音楽会（11月8日）・日立システムズホール仙台】バロックの音楽で構成。洗練され、特に4台のピアノと弦楽による協奏曲の演奏が入場者を感嘆させた。

【長唄演奏会（10月13日）・トクネットホール仙台】出演会員23人らが、伝統の音色を響かせた。台風通過の危うい天候の中、入場者は昨年を上回った。



【仙台三曲協会定期演奏会（10月20日）・トクネットホール仙台】今年も「六段の調べ」で開幕。全17曲、箏、三絃、尺八の独特の音色が会場に響いた。

【茶会（10月13、20、27日）・輪王寺】台風で開催が危ぶまれる局面もあったが、昨年並みの参加者が秋の風情漂う古刹を舞台に茶の湯の世界を楽しんだ。



【第50回記念舞踊大会（11月17日）・東京エレクトロンホール宮城】節目の大会らしくプログラムは多彩。特にフィナーレを飾る合同作品は圧巻だった。

【文芸祭（10月26日）・東京エレクトロンホール宮城】受賞関係者ら出席者数が着実に増え、言葉が紡ぎだす芸術に対する関心の高まりをうかがわせた。



【歳末たすけ合い第57回各流舞踊大会（12月1日）・電力ホール】二部構成で県内の各社中が「総出演」。前回を上回る1150人が伝統の日舞の世界を堪能した。

第56回宮城県芸術祭を総括
部長会議で各々が報告

当協会の2019年度第2回部長会議が12月2日、事務局会議室で開かれた。協議事項は宮城県芸術祭の総括と各部からの事業報告。佐藤皖山執行理事が進行役を務め、全体の進捗状況を説明した後、各部長らがそれぞれの取り組み実績を示しつつ、課題などを述べた。

台風の影響で開催が危ぶまれた10月13日の茶会と長唄演奏会は、関係者の尽力でまずまずの参加者確保。今後、不測の事態に備えて、開催の是非や内容等に関し事前に協会役員らと協議する仕組みを設けることを申し合わせた。テーマイベント「結い〜次代へ〜」をめぐることは、各部長から各部が連携・協力し事業を完成させるコラボレーションの手法を評価する意見が続出。協会の機能強化に向けて、テーマイベントの有無にかかわらず、コラボ型事業推進の重要性が浮き彫りになった。若い世代の取り込みで参加者、入場者が増えた事例報告もあり、コラボ追求の必要性共々、認識を共有し対応していく方向を確認した。

河北との連携公募展が正式決定

協定書を締結、20年度スタート

当協会と河北新報社による「連携公募展」の実施に向けて12月13日、同社で公募展連携協定書の調印式が行われた。当協会の栗石隆子理事長と同社の一力雅彦代表取締役社長が調印し、今秋の連携公募展実施が本決まりとなった。

式では河北新報社の鈴木紳一取締役事業局長が経過を報告。続いて、両トップが協定書に署名し、双方、順守を確認した。

栗石理事長は「連携は事業の維持と充実発展を図る鍵。双方が培った知見を合わせて、地域の芸術文化の振興・普及に成果を挙げたい」とあいさつ。一力社



長も「より魅力のある公募展をつくり上げていこうというのが連携をお願いした狙い。今後も文化活動の充実、向上に役割を果たしていきたい」と述べ、連携効果への期待感を示した。

協定書の骨子は左記の通り。工芸展については、当協会工芸部

協定書骨子

- ・ 知見を結集し、魅力のある公募展に育て、地域の芸術文化の振興に貢献する
- ・ 事業の継続はもとより、共に内容の充実に努める
- ・ 工芸展は新規、写真展は芸術祭写真公募展への統合とし、令和2年度に開始する。事業計画の詳細は双方で組織する実行委員会等で協議、決定する
- ・ 包括的な事業連携も視野に入れ、事業の成功と連携効果の最大化に取り組む
- ・ 協定の期限は設けず、いずれかから協議の申し出があれば、速やかに対応し決定する

と当社が協力・連携して新規の工芸公募展を創設し、写真公募展は宮城県芸術祭写真公募展に河北写真展を統合する形。開催時期は工芸展が河北展を踏襲して11月初旬に、写真展が芸術祭の展示部門開催に合わせて、9月下旬から10月上旬を想定する。

具体的事業計画については、工芸展と写真展それぞれで実行委員会を組織し、詰めの協議を進めている。令和2年度は工芸展が芸術祭工芸展（会員展）同様、11月5～9日、TFUギャラリーミニモリで、「新型」写真公募展は芸術祭写真展に合わせ、9月25～30日、せんだいメディアテークで開催する予定。

事業の進展は、本格的な連携時代に向かう試金石となる。一定の負担は避け得ないが、新たな会員の獲得や知名度アップなど、当協会の先行きに関わるだけに、取り組みの意義は大きい。工芸、写真両部を中心に相応の覚悟を持ち、万全の準備を進めて確かな実りにつなげたい。

研修旅行、次年度は見送り 参加者が低迷、新規事業に注力

協会恒例の研修旅行について、常任理事会は新年度の実施を見送ることとし、当該事業の予算計上は行わない方針を決めた。

参加者の確保が年々、難しくなっているのが主因で、新年度は負担の伴う二つの公募展開催が控えており、新規事業の成功に注力すべきとの結論に達した。

旅行を通じて幅広い会員が親しく交わり、互いに刺激を与え合う意義は小さくはない。その

文芸年鑑発行 750部、定価は据え置き

第56回宮城県芸術祭の一環、2019年版宮城県文芸年鑑が10月15日、発行された。

表紙のデザインは一新した18年版を踏襲したもの、色は青から淡い緑に変更した。昨年同様、750部発行。価格は1000円に据え置いた。

詩、短歌、俳句、川柳、散文、小説の5部門に分けて編集。19年度の文芸賞受賞作と会員の作品を掲載しており、公募人賞作品も盛り込んだ。書店でも取り扱っている。なお、70ページの所属名で「杜の都」とあるのは「杜の都短歌」のミスプリント。

たものの、参加者は催行ぎりぎりの12名にとどまった。現地のツアーガイドの自宅を訪ねるなど、想定外の楽しさも味わい、参加者には好評だったが、付きまとう実施の不安定さを払拭するには至らなかった。

今回の方針は、参加人員の減少傾向に加えて、協会運営の先行きにも関わる新規の事業に全力で取り組まざるを得ない事情も考慮した「苦渋の決断」。組織力強化にもつながる交流・親睦の在り方について、会員間で議論する契機とした。

一昨年(平成30年)8月に入会したばかりの25歳。これから長く、部および協会の活動を支えてもらえる「人材」だ。

邦楽・尺八との出会いは運命的。進学した東北大のサークル紹介で「音色の心地よさ」に興味を引かれた。その後、師である



大友 憧 山・邦 楽部副部長の

演奏に衝撃を受け、心が決まった。

秋田市出身。高校まで地

元で過ごし、和楽器とは全く縁がなかった。卒業後、地元銀行に就職したのも、師の下で技量を磨きたいと考えたことも一因。尺八の魅力を聞けば、「難しさ」と、意外にも聞こえる回答。当初、満足な音が出ず、負けず



渡邊つる子 参事



中塚仁 理事

長年、芸術をはじめとする地域文化の振興・発展に寄与した

地域文化功労者表彰、当協会の2氏に 永年の貢献を評価

個人および団体を文部科学大臣が顕彰する文化庁の地域文化功労者表彰で、当協会の渡邊つる子氏(工芸部)と中塚仁氏(書道部)が令和元年度の被表彰者に選ばれた。

協会の未来 「若手」登場

嫌いの性格を決定的に刺激した。素晴らしさを多くのの人に知ってほしいと、切に願う。だから、演奏の機会を待ち望む。昨年のテーマイベント出演もそうした舞台。ステージを経ることに自らの成長を実感する。学生仲間でも今も活動しているのはほんの一部分が和の響きを社会に届ける意味を、そこにも見る。雅号のごとく、清らかなで美しい憧れの音色を求め、まだまだ修業の身。伝統芸術を次代に引き継ぐ立場を意識しつつも、気負うことなく、休日を中心に高みを求めた修練に誠実に向かい合う。

行動がとにかくエネルギッシュ。文芸部の運営委員を担い、NHK文化センターで講師を務めている。大崎市出身。入会は平成24年。現在、50代だが、會員の高齢化が進む部においては、十分に「若手」だ。目覚ましい活躍が、部の先行きを明るく照らす。



大崎 亜月 24年。現在、50代だが、會員の高齢

作句を始めたのは平成2年。夫の投句を見て「これならできそう」と直感したからだとか。所属する結社「きたごち」の結社賞受賞をきっかけに、師にも勧められ、23年に第一句集『梅

定型の面白さ実感

文芸部(俳句) 篠沢亜月さん(仙台市)

「身近な素材が自然との対話につながり、高踏的な芸術という大枠から離れることで、作句が楽になった」 創作活動への大いなる示唆を与える感慨だ。こうした仲間との交流こそ、會員の特権だろう。

渡邊氏は仙台市出身。女子美術大学工芸科卒。長年、染織家として活動し、宮城県民芸協会会長を務めた。宮城県芸術協会の活動もけん引し、現在、参事。河北工芸展の招待作家、顧問として、東北の工芸界発展に貢献し、宮城教育大学講師などを通じて後進の育成にも努めた。宮城県

芸術選奨を受賞している。「体調と相談しながら、できる範囲で創作活動を継続し、教室等の場を生かして技術の継承にも努めていきたいと思えます」と、秋保の工房で静かに喜びを語った。中塚氏は仙台市生まれ。宮城教育大学卒。教職に就く傍ら、書家として優れた活動を重ね、当協

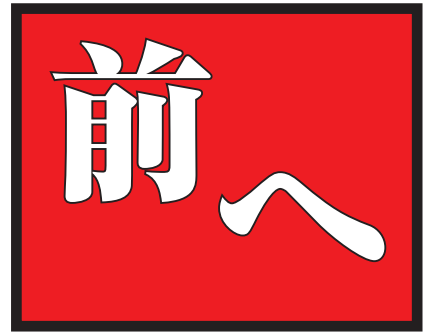
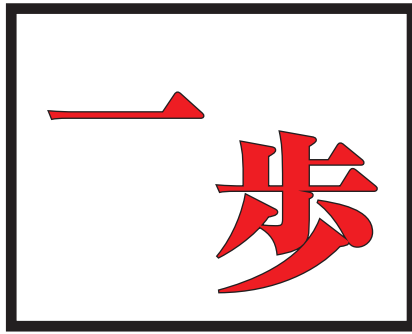
輝く定禅寺通を活写 第6回フォトコンテスト

「定禅寺通フォトコンテスト」が12月2〜8日、東京エレクトロニホール宮城の展示室で開かれた。(公財)宮城県文化振興財団、宮城県と当協会の共催で、今回が6回目。定禅寺通で実施される祭りやイベントをテーマに作品を募集し、入賞するなどした秀作が展示された。

定禅寺通は春夏秋冬、多彩な祭り・イベントが催される、仙台最大のにぎわいスポット。美しい街並みとケヤキの自然景観、躍動する市民らを活写、迫力と魅力にあふれる作品が訪れた市民らを引き付けた。

会書道部の発展にも尽力。協会執行理事などを歴任し、現在、理事。会を主宰し、河北書道展に運営委員として携わるなど、地域の書道界を支えてきた。県芸術選奨受賞、県教育文化功労者表彰も受けている。中塚氏は「実績が乏しいのに、頂戴してもいいのでしょうか。今後も地道に精進を重ねて社会にお返ししていきたい」と控えめに喜びを表しつつ、さらなる貢献を誓っていた。

当協会を構成する12部門の各部長から「年賀状」が届いた。新年をことほぐとともに、令和元年を振り返り課題を見つめつつ、本格的に歩み出す新たな時



「年賀状」

謹んで新春のお喜びを申し上げます。昨年の芸術祭オープンニングで工芸部、邦楽部とのコラボにて、参加でき、また書道部の会場で会期中、作品を展示していただき感謝いたします。華道展における各流派によるデモンストラーション

は定着しつつあり、チャレンジコーナーも会員発掘の場となっております。活動の中心、芸術祭だけでなく、新たな参加機会の創出と他の部との協力可能性も積極的に模索し、伝統文化の継承と地域社会への貢献に努めてまいります。

活動の場拡大希求
華道部長 三浦 景舟

参加機会の創出と他の部との協力可能性も積極的に模索し、伝統文化の継承と地域社会への貢献に努めてまいります。

よき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年の芸術祭工芸展では染めと書の共同作品「令和元年を祝う」が黒色の文字造形と染織の澄んだ青色の諧調で次代への切なる思いを表現いたしました。今秋には「杜のみやこ工芸展」が

新規に開催されます。人と作品人と人が出会う場、作り手と使い手の心が交感する空間を創造できればと思っております。本年、陶芸、染織、木竹芸、ガラスの作家8名が新たに加わります。ご支援をよろしくお願いいたします。

新規公募展に注力
工芸部長 樋田 隆

陶芸、染織、木竹芸、ガラスの作家8名が新たに加わります。ご支援をよろしくお願いいたします。

あけましておめでとうござい。公募展を通じて毎年20名ほどの入会があり、現在の会員数は448名。部の成長に伴い、表現の幅も大きく広がってきています。令和元年度より、絵画展、公募の部それぞれ、部をさらに充実させるべく、一人一人に対応し

た「作品研究会」を、絵画展においては研修を目的に「講演会」も開催しました。部は研鑽の場、発表の場であり、交流の場です。多くの県民の参加の下、「常に新たな芸術文化を希求」し、部をさらに充実発展させていきたいと思います。

新たな芸術文化を
絵画部長 及川 英之

発表の場であり、交流の場です。多くの県民の参加の下、「常に新たな芸術文化を希求」し、部をさらに充実発展させていきたいと思います。

謹賀新年。昨年がガラコンサート、芸術祭音楽会の開催にご協力を賜り、ありがとうございます。音楽コンクールは芸協管弦楽団とガラコンで協奏曲を演奏できるようになって二年目。その効果にも支えられ、ピアノ部門は昨年、過

去最多の140名の応募がありました。当部の会員数は着実に増え、1月時点で139名。本年も若い世代が大勢集い活気あふれる部を目指し、運営委員一同、工夫してまいります。引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

若い世代集う部に
洋楽部長 熊井 雅美

本年も若い世代が大勢集い活気あふれる部を目指し、運営委員一同、工夫してまいります。引き続き、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

元号も変わり、新しい年を迎えました。書道界は少子高齢化の影響を受け、学校での授業も減少し、若い人の書道離れが進んでいます。その一方、昔とは異なり、展覧会だけでなく、高校生によるパフォーマンス大会(席上揮毫)も

増えてきています。インターネットなどを通じて自分の作品を発表する人もいます。社会情勢の変化に合わせて、作品発表の場の多様化を図るとともに、他部門とのコラボレーションなどの新しい取り組みも考えるべきだと思っています。

発表機会拡充図る
書道部長 千葉 蒼玄

インターネットなどを通じて自分の作品を発表する人もいます。社会情勢の変化に合わせて、作品発表の場の多様化を図るとともに、他部門とのコラボレーションなどの新しい取り組みも考えるべきだと思っています。

新春のご祝詞を申し上げます。彫刻部は少数会員ながら、粘土、石膏、木、石、鉄や布をはじめ、さまざまな素材を駆使し造形を行う表現者の集まり。芸術祭彫刻展はまさしく表現の多彩性を象徴する機会です。多彩性が一つになって発

表の場を持つ。これこそ和衷協同であり、芸術祭のテーマ「結い」につながるものだと思います。昨年は展示を工夫し、変化を試みました。新たな発想での取り組みを推進し、一人でも多くの仲間が増えることを期待しています。

仲間増へ工夫徹底
彫刻部長 大槻 俊之

新たな発想での取り組みを推進し、一人でも多くの仲間が増えることを期待しています。

代への期待と決意を込めた熱いメッセージ。会員、部員一同、思いを受け止め、確かめ合せて、「希望と共にある未来」を引き寄せたい。

部長からの

令和

初春

あけましておめでとうございます。機会を頂き、お客様と私どもも出ます。邦楽部は三曲、長唄の二つ、演者との関係の深まりを感じるものができました。今年も三曲、長唄両部門が共同で取り組める活動を模索

部の活性化に全力

邦楽部長 杵屋和加喜久

あけましておめでとうございます。シモンする意義、奥の深さを実感と共に会員皆さまのますますのご活躍を祈念いたします。文芸部は昨年、5年ぶりに芸術祭の開幕イベントに参加。写真部、書道部と邦楽部による箏の演奏を背景に新作を発表し、他の部とコラボレーションする

ジャンル超え模索

文芸部長 佐藤 淑子

あけましておめでとうございます。ゴール」に向かい、熱く全力で取り組んでまいります。6月の「学んでみよう能」と題した研修会にもぜひご参加ください。若男女、表

おもてなしを追求

茶道部長 鎌田 宗節

あけましておめでとうございます。今年も当部は演劇人口の激減という厳しい現実を抗い、美風を語り伝え、全ての人間を信じ、尊重し、温かく慈しみ、優しさを育む人間愛を涵養することを目的とした文化活動を軸に事業を展開

文化力で社会貢献

演劇部長 大日 琳太郎

新年のごあいさつを申し上げます。でも華やかで感動的な舞台となります。昨年の芸術祭のテーマ「コラボレーション」ができる環境を大切に、さまざまな作品の制作に携われる

コラボ舞台弾みに

舞踊部長 高橋 厚子

あけましておめでとうございます。ニターで、高校生の作品を紹介しています。先進的な取り組みが奏功し、昨年の公募展の応募者は高校生6名を含め、100名を超えるに至

連携公募展に期待

写真部長 落合 英俊

あけましておめでとうございます。2016年からモニターによる展示を開始し、現在は協会所有の4Kモニターで、さらなる拡充を期待しています。

菅野美術館賞受賞者展を開催
「宮城の彫刻」の啓蒙、普及を狙いに

宮城県芸術祭彫刻展で「菅野美術館賞」を受けた彫刻家の作品を集めた「菅野美術館賞受賞者展」が12月11～25日、塩釜市の同美術館で開かれた。彫刻をメインに所蔵、展示する(公財)菅野美術館が、同賞創設10年を機に企画し、当協会などが協力。受賞者7人の作品を展示した。



彫刻に対する啓蒙と普及を図るのが狙いで、専門家らのトークイベントや展覧会を通して「宮城の彫刻」を知ってもらおう試み。3月1日まで同美術館を会場に開催中の「佐藤忠良展」のプレ展に位置付けた。忠良は宮城県が生んだ近代具象彫刻の巨匠で、同展では宮城県美術館所蔵の子どもをモチーフにした作品を中心に展示している。

私達は芸術協会を応援します

新賛助会員

(団体)

- ◆医療法人社団心々堂 高橋眼科クリニック 理事長 高橋和晃様

事務局日誌

会務報告

- 【第2回部長会議】12月2日
- 【第56回宮城県芸術祭について】12月6日
- 【第3回理事会】12月6日
- 令和2年度事業計画及び予算編成の方針について
- 賛助会員の推薦について
- 理事候補者数の配分について
- 【第3回部長会議】1月20日
- 次年度に向けた各依頼事項について

後援

- ☆山形栄一墨彩画展 11月16～24日
- ☆美里町近代文学館 美里だまりコンサート 11月17日、1月25日、3月28日
- ☆つばめの森ひだまりホール及び亙理町中央公民館 11月20～24日
- ☆第44回素心書道会書展 11月20～24日
- ☆宮城県美術館 宮城44回教育書道学生部展 11月20～24日
- ☆宮城県美術館 宮城12回河北小中学生書道展 11月22～24日
- ☆TFUギャラリーミニモリ 11月23日
- ☆仙台銀行ホール 仙台第39回「日本の調べ」演奏会 11月23日
- ☆混声合唱団クール・リュミエール 11月24日
- ☆混声合唱団クール・リュミエール 11月24日
- ☆日立システムズホール仙台 11月28日
- ☆第27回宮城シニア美術展 11月28日
- ☆宮城県美術館 宮城10回「河北展」 11月30日
- ☆美里町近代文学館 美里だまりコンサート 12月8日
- ☆歳末たすけ合い 第57回各流舞踊大会 12月1日
- ☆電力ホール

- ☆第37回メサイア演奏会(全曲演奏) 12月15日
- ☆日立システムズホール仙台 東北書道新春選抜展 1月25～29日
- ☆せんだいメディアアテーク しみやぎコーラルハーモニー第14回定期演奏会 2月2日
- ☆日立システムズホール仙台 2月2日
- ☆音緒の会 箏曲地唄演奏会 2月11日
- ☆仙台市戦災復興記念館 仙台市戦災復興記念館 in Sendai 2020 2月22～23日
- ☆日立システムズホール仙台 2月22～25日
- ☆一般社団法人宮城県華道連盟第79回春のいけばな展 2月22～25日
- ☆せんだいメディアアテーク 3コンセル・プランタンIV 3月14日
- ☆日立システムズホール仙台 3月15日
- ☆第15回ALL NIPPON DANCE フェスティバル 3月15日
- ☆ラシックバレエコンペティション MIYAGI 3月30日
- ☆日立システムズホール仙台 4月1日
- ☆書禅筆香会「感謝の集い展」 4月3～8日
- ☆せんだいメディアアテーク 4月3～8日
- ☆大友青陵軌跡展 4月3～8日
- ☆せんだいメディアアテーク 4月23日
- ☆第83回河北美術展 4月23～5月5日
- ☆藤崎本館 T F Uギャラリーミニモリ 5月1～6日
- ☆2020しみやぎを魅せる書展 5月1～6日
- ☆せんだいメディアアテーク

会員の入賞・入選など

- ◆改組新第6回日展(第1科日本画)▽入選 奥山和子、荒井静子、高橋美紀子(第2科洋画)▽入選 佐藤幸子、秀島

受贈書

『合同歌集「山茶花」第7集』(山茶花短歌会)、『歌集 冬天』(大友圓吉)、『宮城の現代詩2019』(宮城県詩人会)

謹弔

絵画部(洋画)	鈴木欽次郎	9月7日
文芸部	佐治英子	9月18日
書道部	結城清峰	10月31日
書道部	鷺池榮香	11月30日
茶道部(織田流煎茶道)	芥川南祥	12月1日
文芸部(短歌)	青山 旻	12月2日
書道部	大友青陵	12月30日
彫刻部	土屋瑞穂	1月15日

けやきの譜

東京五輪の真夏の開催は、テレビの放映権に関わる経済的理由によるらしい。権力を持つ人たちの都合に、開催月も開催場所も、それぞれの競技の試合開始時間も左右される。スポーツは勝負がはっきりしていて、多くの人々が新たなヒーローやヒロインの誕生に熱い視線を注ぐことだろう。▼片や芸術の分野で、国民的話題となり、記憶に残る出来事となるには絵画、音楽、バレエなどのように著名な国際コンクールでの活躍が必要となる。芸術の評価はスポーツのようにはいかない。それは時間や距離、「勝ち」「負け」といった明確な勝敗ラインがないからだ。芸術の良し悪しは受け手の練度にもよるし、同じ分野の専門家とはいえ、判断が異なる場合もある。▼半世紀近く前の田村隆一詩集『新年の手紙』の同題の詩に「きみに」悪が想像できるなら善なる心の持主だ「悪には悪を想像する力がない」悪は巨大な「数」にすぎない」という一連があった。この言葉が、ポピュリズム政権や五輪、芸術にも突き刺さっていると考えるのは、穿ちすぎだろうか。(英)